

初心

2018年盛夏号

平成30年7月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

〈発行所〉

福田富一
暮しと政治研究所
〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
http://www.tomikazu.com

「デステイネーションキャンペーン(DC)」 『本物の出会い栃木』成果を上げる

栃木県知事 福田富一



DCキャンペーンのグランドファイナールセレモニーで挨拶する福田知事=JR那須塩原駅前

「選ばれるとちぎ」へ

《19年ぶりのDCキャンペーン》

JRグループ6社と県や市町、観光関係団体等が協働で栃木の魅力を発信する大型観光企画「デステイネーションキャンペーン(DC)」が、4月1日から6月30日までの3ヶ月間開催された。

本県が選ばれたのは1999年春の「やすらぎの栃木路」以来19年ぶりとなり、今回は「本物の出会い栃木」をキャッチフレーズに、「花」「食」「歴史・文化」「自然」「温泉」の5テーマに基づき、276の特別企画を誘客に向けて実施した。

期間中、北は北海道から南は九州まで、JR車両内の広告、駅舎内のポスター(5連)、観光案内所や観光事業者のパンフレットやガイドブックは栃木の情報であふれた。

本県においては、東武鉄道も全面協力・協同してくれたことも大きな力となった(下記写真)。

このキャンペーンは3ヶ月単位、年4地区で行われるが、1月から3月は毎年「京都」と決まっているので、枠は3つしか残されていない。

そこに全道府県が名乗りを上げ、JR6社が協議して決定していく。主には、新幹線の開業や、大きなイベントが企画されている、話題性が高く特徴ある地域が選ばれる可能性が高い。

《アフターDC》

昨年は同時期プレDCを実施し、来年はアフターDCを実施する。JR東日本が中心となり、その管内に限定されるため規模は小さくなるが、3年目の仕上げの年を迎える。この2年の取り組みを検証し来春に備えたい。

《吉永小百合さんのCM》

ところで、「大人の休日倶楽部」(JR東日本)のテレビコマースシャルは絶大な効果があった。

2月14日から2月末までの「雲巖寺」、4月1日から4月15日までの中禅寺湖畔の「英国大使館別荘記念公園」は、放映直後から大きな反響があり、今もなお、これまでにないにぎわい、昨年の倍以上の来館者となっている。

《DCの効果》

今回の取り組みでは、ホテル・旅館など観光業者や市町間のこれまでにない連携が大きな力となった。「おもてなし」下手といわれる栃木県をなんとかしたいと、数年にわたり取り組んだ成果や、県民の皆様一人一人が「おもてなし」を呼び掛け、「おもてなしいちご隊」の登録なども行った(隊員登録者は4万5千人)。

多くの観光客から、「また来たい」との声とともに、おもてなしに感謝する言葉も聞かれた。

DCに向けて結束を誓う福田知事(中央)、JR東日本の中村知久(大宮支社長)(右)、東武鉄道の都築豊・鉄道事業本部長(県庁)



一方、県外で生活する方から、ふるさとがにぎわっていることを喜ぶ声や、栃木に住まいを求めた方が、ふるさとへ里帰りした際の車両や駅などでの栃木の情報の多さに驚いたなど、地元紙に投稿されているのも目にした。

《県民の誇り》

このキャンペーンを通して、県民はもちろん、栃木にかかわる全ての人が、この栃木のすばらしさに「誇り」を持つことができたのではないかと思います。

今後、成果と課題を検証し、来年の仕上げとなるアフターDCに臨み、さらに国内外の皆様にも、栃木を知り、栃木ファンになってもらえるよう努めたい。そして、別荘や住まいを栃木に求めたり、働くことや子育てをする場として栃木が選ばれることにつなげたい。

「本物の出会い栃木」



「国王」として、1月15日を「いちご王国・栃木の日」と宣言する福田知事(中央)と宇都宮短大附属高校生(両隣)

「いちご王国・栃木の日」制定

50年連続で生産量が全国1位となるのが確実な県産イチゴの魅力を国内外にさらに発信するため、県は「いちご王国」の15日、1月15日を「いちご王国・栃木の日」に制定した。県庁議会棟で同日、記念セレモニーが開催され、赤いガウンを纏い「国王」に扮した福田富一知事が「名実ともに『いちご王国』。イチゴは本県の顔であり、将来にわたって引き継ぐべき宝。『王国』

として次の50年、100年にわたって発展していくことを願う」と記念日を高らかに宣言。続いて若手生産者らが登壇し「若者が夢をもっと取り組めるいちごづくり」「いちごを活かした人づくりやまちづくり」などを力強く誓った。セレモニーの前後には、宇都宮短大附属高校の生徒による自作のファッションショーや高根沢町立阿久津小学校の児童らがライブを披露し盛り上がった。

「日本一のおもてなしを」

「日本一のおもてなしを」デステイネーションキャンペーン(DC)開幕

4月1日、本県開催は19年ぶりとなるJ Rグループの大規模観光企画「デステイネーションキャンペーン(DC)」が開幕した。6月までの期間中、オープニングセレモニーでテープカットする福田富一知事(中央右)やJR東日本の深沢祐二社長(中央左)



「本物の出会い栃木」を合言葉に、全国各地で栃木の観光PRが行われる。県内ではさまざまな関連イベントなどを展開して、多くの人に来てもらい、魅力を知ってもらおうと、県の総力を挙げてのおもてなしが華々しく始まった。県庁1階ロビーで行われたオープニングセレモニーでDC実行委員長の福田知事は「待ちに待ったこの日がやってきた。花、人、温泉、自然、歴史・文化の五つの『本物』を楽しんでもらえると確信している。また来たいと思ってもらえるように、オール栃木で日本一のおもてなしをして

福田知事 ブラジルとアルゼンチンを訪問

福田知事や五十嵐清県議会議長をはじめ本県関係者一行は、7月15日(23日までの9日間の日程で、アルゼンチンとブラジルを訪問した。一行は15日に日本を出発し、16日にアルゼンチン・ブエノスアイレスで、在アルゼンチン県人会(会員数47人)との夕食会に出席。17日は大使館などを訪問した。18日にブラジルに移動し、19日はサンパウロ市内で開かれた在伯栃木県人会(会員数434人)の創立60周年記念式典に出席。福田知事は「これまで大変な努力を積み重ねられ、ブラジルの発展にも貢献されるなど、われわれにとって大きな誇りだと思っている。今後も栃木県との

懸け橋となつてほしい」と祝辞を述べた。式典後、同市内にある日本移民開拓先没者慰霊日を参拝し、献花を行った。20日はジェットロサンパウロ事務所などを訪問。21日はブラジル日本移民110周年記念式典が開かれ、日本からは福田知事と五十嵐議長、浜田香川県知事、三反園鹿児島県知事らが参列した。式典は毎年恒例の日本文化紹介イベント「フェスティバル・ド・ジヤポン(日本祭り)」の会場で開催され、47都道府県県人会が協力して各地の郷土料理など500種類以上を一度に披露するイベントも行われた。一行は23日に帰国した。



在伯栃木県人会60周年記念式典で祝辞を述べる福田知事(19日、ブラジル・サンパウロ市)

とちぎ創生アイデア会議(鹿沼 日光 塩谷地区) 知事と語ろう!とちぎ元気フォーラムinさくら

地域で先駆的な取り組みをしている人々と福田知事が意見を交わす「とちぎ創生アイデア会議(鹿沼、日光、塩谷地区)」が6月9日、さくら市の氏家公民館で開かれ、さくら、鹿沼、日光、矢板、高根沢、塩谷の6市町から6人が参加。観光や農業、地域づくりなどについて話し合った。《とちぎ元気フォーラムinさくら》

福田知事が市町に出向いて県民と対話する「知事と語ろう!とちぎ元気フォーラムinさくら」が同日同所で開かれ、市民ら約100人が参加し意見を交わした。

福田知事はまず、2020年の東京五輪・パラリンピックの機運醸成のためのフラッグツアアや、とちぎデステイネーションキャンペーン(DC)の効果について説明した。事前アンケートで関心の高かった

「高齢者対策・医療・福祉」では、「2025年には3人に1人が高齢者になる。意欲のある高齢者が地域を支える側として活躍してもらいたい」と述べた(左写真)。



栃木の魅力を全国発信!

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていただきました。

公共交通維持 支援を

関東地方知事会

本県など10都県で構成する関東地方知事会の定例会議が5月23日、都内で開かれ、国への施策や予算に関する13の要望・提案などを決めた。福田知事は地域公共交通維持に向けた支援拡充などを提案し了承された。

福田知事が求めたのは、交通不便地域の移動手段となっている路線バスなどの補助財源の確保。「国の補助金の削減が続く、市や町も大変な状況」と補助制度の見直しを訴えたほか、外国人観光客も含めて利便性向上につながるとして、「Suica(スイカ)」などの交通系ICカードに対応するバスや駅を増やす



関東知事会議で意見を述べる福田知事(中央)

ための財源支援を求めた。

国際観光税 地方配分を

全国知事会議

全国知事会議が4月17日、都内で開かれ、文化資源を活用した観光振

興について中間とりまとめ案が報告された。国への提言として、文化財を保存活用する地方への支援のほか、新設される国際観光旅客税の地方への配分などを求めている。

近年大きく伸びている訪日外国人旅行者の受け入れ環境整備が狙い。文化財の多言語解説の作成支援、無線LAN「WiFiファイ」(ワイファイ)環境整備などを国に求めた。

WiFiの整備費には国の補助が出ていますが、運営費は地方持ちが原則。会議後の取材に対し福田知事は、「WiFiはやればやるほど金が掛かる。その財源に新税を充てられたらありがたい」と述べた。

会議では会長に埼玉県の上田清司知事を新たに選任した。昨年副会長に選任された福田知事は続投。

◆1月1日 皇居/新年祝賀の儀参列
◆1月4日 幹部職員を前に年頭訓示
◆「選ばれる栃木」の実現のため
◆「『選ばれる栃木』と抱負を述べる。全力で取り組む」と訓示。

◆1月10日 しもつけ21フォーラム/県版技能五輪を創設する考えを表明。

◆2月3日 壬生の助谷バイパス開通式/「地域活性化に寄与すると期待」と知事。

◆2月25日 都内で「JIMOTO TOCHIGI FES」/「栃木との縁を深めてほしい」と知事。

◆3月24日 東京・JR上野駅構内で「デスティネーションキャンペーン(DC)キックオフセレモニー」/「心のこもった日本一のおもてなしで迎えます。ぜひ栃木に足を運んで頂きたい」と来場者に呼び掛ける。

◆3月27日 那須雪崩事故から1年追悼式に出席/「亡くなられた方々の無念さ、遺族の悲しみを思うと痛惜

東奔西走の日々

◆1月16日 総合スポーツゾーン新体育館起工式/「広く愛される施設となることを願っている」と福田知事。

◆5月19日 小山駅で「SL本物の出会い栃木号」の出発式(上記写真)に出席/「DCも後半。ぜひ国内外のお客様に栃木に来て欲しい」とあいさつ。

◆5月19日 「とちまるシヨップ」オープン6周年記念イベントに出席。

◆5月26日 神宮球場で本県冠試合/福田知事が栃木をPRする。

◆6月7日 ロシア・カルーガ州のアルタモノフ知事来県/福田知事、地域間交流へ年度内の訪露を約束する。

◆6月12日 独協医大特任教授として講義/新入生にメールを送る。

◆6月30日 DC閉幕那須塩原で式典/「一過性のものとせずDCの成果と課題をしっかりと検証する」と知事。

直木賞受賞 小説「銀河鉄道の父」

門井さんに知事特別表彰



福田知事(右)から知事特別表彰を贈られた門井慶喜さん(左)

「直木賞受賞をうれしく思う。県民挙げて応援します」と激励。門井さんは「大変名誉なこと。故郷感があり、帰ってきてよかった」と青春時代を過ごした故郷での受賞に感慨深げに語った。

門井さんは群馬県桐生市生まれで、宇都宮市育ち。宇都宮東高校から同志社大に進み、宇都宮市内で大学職員として勤務した経験もある。

福田知事から「銀河鉄道の父」を書いたきっかけを問われると、「子供に買った宮沢賢治の学習漫画がきっかけ。テーマは男女を問わず普遍的な親子の悩み。親子関係で悩ましい人はいないと思うし、悩むことは一種の生産行為だ」と述べた。

「第2回 ツール・ド・とちぎ」開催

国内外15チームが参戦した自転車ロードレースの国際大会「第2回 ツール・ド・とちぎ」は3月23日、25日に開催され、25日は那須町、真岡市間の約147キロで、第3ステージを行って3日間の戦いが幕を閉じた。

今回は16市町を舞台にした全長約259キロで開き、第1回大会も含めて県内全市町を通過した。期間中、沿道などで延べ7万1900人がトップ選手の走りを楽しんだ。

第3ステージを制したオランダ人のレイモンド・クレダー選手(チーム右京)は「とてもいい雰囲気の中で走ることができた」。3位の黒枝咲哉選手(シマノレーシング)も

「日本のレースでこれほど人が集まるのはなかなかない。大歓声の中でスプリント勝負できて楽しかった」



表彰式で、福田知事(左)と、第3ステージを制したオランダ人のレイモンド・クレダー選手(中央)、3位の黒枝咲哉選手(右)

新春の華やぎのなか ゆりの会新年会



乾杯ののちの余興では、「邦楽ブリスデン」智世代(ちせだい)の皆様は、春の海を始めとした曲をご披露いただき、和の雅やかな音色に、会場全体が柔らかなで優しい雰囲気包まれ、お食事をされていた皆様も満たされたお気持ちでお過ごしのご様子でした。

その後、テーブルごとにご知事と夫人を囲んでの写真撮影や抽選会などをお楽しみいただき、新年会は終始和やかなうちに時間を忘れて繰り広げられ、本年も皆様との親睦をより一層深める素晴らしい集いとなりました。

雨のち曇りのち晴れの中

ハイキング

6月17日、100名近くの参加者がバス3台に分乗して、日光の「瀬戸合峡・川俣ダム



1号車の皆さん



2号車の皆さん



3号車の皆さん

遊歩道」のハイキングに出発。この日は朝からどんよりした灰色の雲が垂れ込め、途中雨も降り、肌寒さを感じる陽気だったが、川俣大橋の手前でバスを降りると、一転、晴れ間が広がり日がさしてきた時には、思わず「おお！」と歓声が上がった。そこから鬼怒川の上流に位置する瀬戸合峡を目指して出発。峡谷内にある川俣ダム正面の岸壁に架けられた吊橋「渡らっしやい吊橋」からの眺望は絶景で、断崖を間近に感じる事ができた。川俣湖畔の若葉青葉の景色も目に染みる美しさだった。万緑豊かな自然と清々しく澄み切った空気に包まれてのハイキングは、日頃の疲れを癒し、大いにリフレッシュできた1日となった。

『福田とみかず君の政治生活三十五周年を祝う会』開催のご案内

日頃より福田富一知事の政治活動に對しまして、温かいご指導とご支援を賜り、誠にありがとうございます。おかげ様で、知事として県民の皆様への負託にお応えすべく、日々活発な活動を展開しております。

思い起こせば、昭和五十八年四月に二十九歳で宇都宮市議会議員に初当選して以来、栃木県議会議員、宇都宮市長、栃木県知事と、真剣勝負で歩んで参りました。その歳月は早三十五年を数えることとなりました。

このたび、実行委員会の皆様のご尽力により、下記の日程で、『福田とみかず君の政治生活三十五周年を祝う会』を開催する運びとなりました。改めまして文章にてご案内させていただきますが、ご案内漏れがございましたら失礼と存じ、紙面にてお知らせ申し上げます。何かとご繁忙の折とは存じますが、何卒ご来駕賜りますようお願い申し上げます。

記

日時 平成三十年十二月九日(日) 受付 午前十一時半
開会 午後十二時
会場 宇都宮グランドホテル
会費 壹万円
宇都宮市西原町一四二
電話 〇二八(六三五)二二一一

※準備の都合上、ご案内状に振込用紙を同封致しますので、ご出席の場合には銀行振り込みをご利用頂けると幸甚に存じます。(ご都合でご出席頂けない場合には破棄して頂ければと存じます。)当日の受付でも結構でございます。恐縮ですが、ご案内漏れがございましたら、皆様お誘い合わせの上、是非ともご出席下さいますようお願い申し上げます。

『福田家の茶の間』

娘が良いご縁に恵まれ結婚しました。3年前に長男が、昨年は二男が結婚し、「今年こそは娘の幸せを」と考えていたが、それは突然訪れた。結婚式は来年だが、すでに入籍を済ませ、間もなく同居する。ただただ幸せを願っている。



我が家の愛犬【もも】(パグ・10歳)が逝ってしまった。突然の出来事だった。茫然自失の私を、アニマル先生は慰めてくれ、きれいに整えて、花を手向けてくれた。10年前、娘と立寄ったペットショップで一目惚れ。額が桃に似ているから【もも】と名付けた。娘は自らを『ももちゃんズ』と呼んで可愛がった。まるで、娘の幸せを見届けて、自分の役割は終わったとでもいうような旅立ちであった。

最初はこじんまりと身内だけで、という話もあったが、私は、35年間お世話になってきた皆様に、漏れなくご案内が届くようにお願いした。夫はいつも全力投球である。引き続き頑張りたい。

夫は知人から(私達の年齢なら)「もう1度飼えるでしょう」と進められていたようだが、私はせめて1周忌までは【もも】との思い出に浸りたいと思っている。

編集後記

初回は年2回、新春号の1月と盛夏号の7月に発行している。記事を書き進めようか、写真や動画をどうしようか、と思いつくのが、初心を作るたびに感じる。真摯に政治に向き合っている知事の姿である。今年のは知事の政治生活35周年の節目の年。どうぞ一読下さい。連日うるような暑さが続いています。くれぐれもご自愛ください。

福田とみかず政治生活35周年特別企画



加藤登紀子 トーク&ライブ
日時 9月18日(火) 午後6時30分 開会
場所 宇都宮グランドホテル
入場料 2,000円

※チケットご希望の方は事務所まで連絡下さい。

◆◆福田富一後援会総連合会事務所
◆◆福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110